



Grass Roots Innovator Festival in Kanagawa 2025

令和7年11月19日、「Grass Roots Innovator Festival in Kanagawa 2025」が開催され、PrincipiaⅡ校内研究グループ1チームが参加し、ディスカッション賞を受賞しました！この発表会は発表動画を作成し、他の学校の動画を視聴、参加者同士の意見交換や有識者からの助言を通して新たな気付きを得ることにより、探究活動をより深化させることを目的に実施している発表会です。右記は本校の発表動画のQRコードです。ぜひご覧ください。

以下は探究タイトル、アブストラクト、発表メンバーです。



【探究タイトル】

「コレキテ -着る服に迷ったら?-」

【アブストラクト】

気温と体感温度の差があることに焦点を当て、自分に合った服装を選べるようにAIの活用を試みた。そこで天気予報から体感温度を導き出す公式を用いて、AIがその日にその人に合った服装を提案するアプリを作成しようという目標を立てた。活動の結果、私たち学生だけでは難しい事が多く、AIで生成したプログラムによりスクリエイピングを図ったものの想定通りには動作しなかった。しかし、ミスナール改良式を使い、様々な場面での体感温度を求めることができた。その数値により、体感温度と風速が大きく関係していることが推測できた。

【発表メンバー】

2年3組 鵜川 喜実子さん、2年3組 神野 亜香里さん、2年3組 鈴木 健太さん

2年3組 竹川 奈穂さん、2年6組 服部 琉宇さん

Q: 発表に向けて準備したこと

A:日々の研究を正確に継続することは重要ですが、私たちは「結果以外に何を知りたいか」「大胆にどう伝えるか」を重視してきました。その姿勢が将来の研究目標を定めやすくし、思わぬ発見につながることもあります。文字を巨大にするなど独自のポスターデザインは、発表前から注目を集めることができますので実践してみてください。

2年6組 服部 琉宇



Q: 意見交換や助言をとおして気付いたこと

A:意見交換を通じ、他者の方法論や着眼点の多様性に触れました。自分の考えを相対化して比較・検証をすることで、研究や学びの精度を高める重要性を再認識しました。また、他者の視点を受け入れることで、これまで見落としていた本質的な問題に気づくことができ、学びの幅が大きく広がっていくことを実感しました。2年3組 竹川 奈穂

Q: 他校の発表を聞いて

A:他校の皆さんも私たちが普段行っているような探究活動に取り組んでいることに驚きました。内容も多様で興味深いものが多く、仮説に即してしっかり突き詰められていて面白かったです。これから私たちの研究では今回得た新たな視点や探究心を強く持って進めていきたいと思います。

2年3組 鈴木 健太

Q: 発表した感想

A:私は、今回の発表を通して、他校の多様な分野における研究内容を知り、多くの刺激を受けました。また、私たちの研究について、さまざまな視点から具体的なアドバイスや改善点をいただき、自分たちの未熟さを改めて実感しました。いただいたアドバイスや改善点を今後の研究に活かしていきたいと思います。

2年3組 神野 亜香里



Q: 後輩へ一言

A:私はポスターセッション以外で同じ高校生の発表を聞くのは今回が初めてでした。客観的に見る力の大切さを実感しました。自分達の探究について意見や質問を受けることでより理解が深まり、また、新しい視点の探究活動を知ることができたので、みなさんもこのような企画がある際はチャレンジしてみてほしいです。

2年3組 鵜川 喜実子